



# 「きっと、もっといい明日」ユーデコスタイル

21世紀を迎え、弊社では人と地球が調和する共創の社会の実現をめざし、新しい企業コンセプト「Ud&Eco Style (ユーデコスタイル)」を掲げ、すべての企業活動を展開しております。

2002年度はこのコンセプトをもとにした新製品として、クリエイティブワークステーション「momotaro」や次世代チェア「レビーノチェア」などを発売しました。おかげさまで、多くのお客様より高い評価をいただいております。

弊社の2002年度の環境活動として、まず特筆すべきは、2002年11月にISO14001の全社統合認証を取得したことです。各部門ごとに設定した環境負荷削減の目的と目標の達成に向けて、全社で積極的に活動を開始しています。

1999年から取り組んでいる環境管理活動は、環境負荷を削減するためのさまざまなしくみを構築し、改善に努めながら徐々に環境活動範囲を拡大してきました。現在では、資源の有効利用をめざす廃棄物の削減や省エネルギー・省資源活動、さらにグリーン購入法適合商品などの環境配慮製品の提供やオフィス空間をはじめとする快適環境のデザイン活動など、事業活動の全てをカバーする取り組み内容になっています。

今後の主な取り組み目標としては、まず2002年の展示会等で発表しました、農産廃棄物を使用した家具「アグリファニチャー」の積極的な展開が挙げられます。素材の特性や魅力を生かし、今までとは違った視点での製品開発の実現を目指していきたいと考えています。

次に挙げられるのが、使用済回収製品のリサイクル率の向上です。2002年度は、使用済回収製品や梱包材のリサイク

ル活動を高めた結果、リサイクル率は使用済回収製品全体で71%、梱包材全体では97%にまで向上しました。

今後は、これらのリサイクル率をさらに向上させる体制を整備するとともに、お客様のオフィス移転等に伴う不要什器の有効活用に努め、オフィスのゼロ・エミッション化を推進していきます。

環境報告書の発行は今年で4年目になりました。まだまだ不十分なところもございますが、環境報告書発行は企業の社会的責任の一端を担う重要な責務だと捉えています。今後も引き続き、弊社の環境活動の姿勢と結果をより一層充実させた内容でご報告させていただくことをお約束いたします。

2002年度の環境活動をここにご報告し、今後の活動へのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



株式会社イトーキ  
代表取締役社長 奥田 努

## 人と地球の共創社会をめざす企業コンセプト「Ud&Eco style ユーデコスタイル」



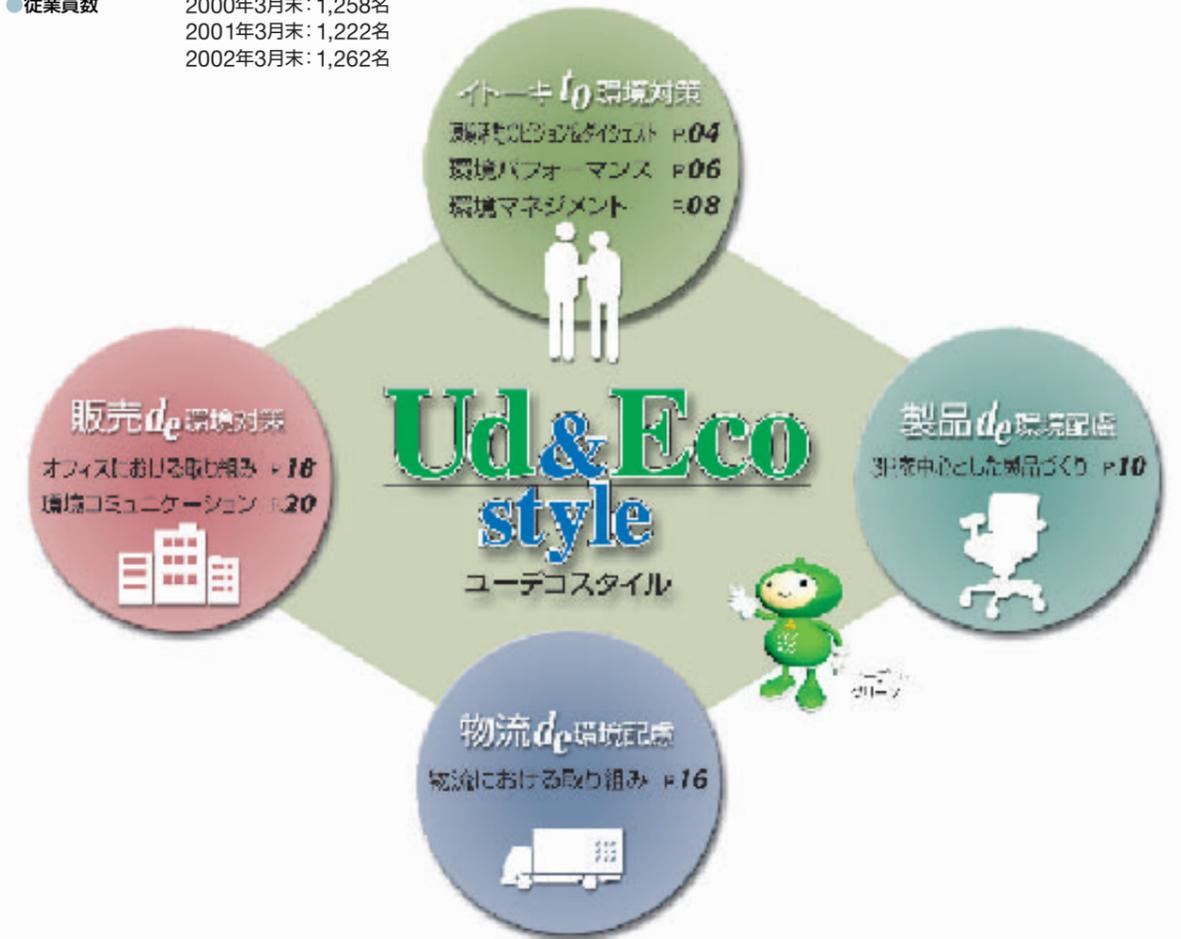
Ud&Eco style (ユーデコスタイル)は、21世紀の社会にとって重要な2つのキーワードであるUd (ユニバーサルデザイン)とEco (エコデザイン)を1つに融合させ、持続可能な共創社会の実現と、すべての人が利用できる製品や環境づくりをすすめる、新しいコンセプトです。イトーキは、製品・環境づくりにおいて「Ud&Eco style」の具現化に取り組み、人と自然にやさしい、共創の社会をデザインしてまいります。

## 会社概要

●社名	株式会社イトーキ
●英文	ITOKI CO.,LTD.
●代表取締役社長	奥田 努
●創業	明治23年12月1日
●設立	昭和8年12月26日
●資本金	99億800万円
●年間販売高	2000年: 1,110億1,000万円 2001年: 1,120億1,000万円 2002年: 1,022億2,200万円
●本社所在地	大阪本社: 大阪市中央区淡路町1-6-11 東京本社: 東京都中央区銀座1-8-19
●事業所・物流拠点	事業所数46、配送センター数8
●従業員数	2000年3月末: 1,258名 2001年3月末: 1,222名 2002年3月末: 1,262名

## 事業概要

- オフィス家具の販売  
事務用デスク、事務用チェア、収納家具、パネル、金庫、耐火什器等
- 設備機器の販売  
建築設備機器、内装インテリア、物流設備機器、セキュリティ設備機器、情報設備機器、商業設備機器、研究設備機器等
- その他  
組立・施工等の物流サービス、修理、メンテナンス等



### 4カラーに変身するユーデコちゃん

地球を救うべく、遙かかなたのユーデコ星からやってきたユーデコちゃん。環境破壊が進み、破滅しかけていたユーデコ星を救った経験をもとに、4色に変身しながら、地球人にユーデコスタイルの実践を呼びかけます。

- 環境への配慮をアドバイスするときはグリーンに変身!
- 使いやすさなど人への配慮をアドバイスするときはレッドに変身!
- 情報化対応に関してアドバイスするときはブルーに変身!
- さまざまなポイントをアドバイスするときはシルバーに変身!

### ●編集方針

本報告書は、イトーキ全社の2002年度(2001年12月~2002年11月)の環境活動についてまとめたものです。環境省の「環境報告書ガイドライン2000年度版」、「事業者の環境パフォーマンス指標2002年度版」など各種ガイドラインを参考に編集しています。昨年度から引き続き、「わかりやすく、読みやすい」を方針に掲げ、全社の環境パフォーマンスや廃棄物のリサイクル実績についての内容を充実させました。次回発行は、2004年7月の予定です。

イトーキは、環境理念と環境方針に基づき、企業活動の全ての段階において、地球環境に配慮した活動を行っています。

## イトーキ環境理念

持続可能な循環型社会を実現するために、イトーキは企業活動の全ての段階で責任をもって地球を守る、環境重視主義に徹します。

## イトーキ環境方針

株式会社イトーキは環境理念を達成するため、当社の環境に対する意志と姿勢を明確にした下記の環境方針を定め、環境保全に取り組みます。

### ①製品・サービス

地球環境の保全に役立つ製品とサービスを提供する。製品およびサービスの企画、開発から廃棄までの各段階で環境に配慮する。

### ②新技術・新システム

地球環境の保全に役立つ発明、特許等を積極的に取り上げ、斬新な新製品、新システムとして世に送り出す。

### ③汚染の予防

常に、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、有害物質の排出防止等により汚染の予防に努める。

### ④広報

環境問題の重要性を広く社会に呼びかけ、自社の環境施策を積極的に開示する。

### ⑤法令

国、地方自治体等の関係法・条例等を遵守する。

### ⑥調達

環境負荷の少ない設備、備品の調達に努める。

### ⑦教育

社員への教育・啓蒙活動を実施して、従業員一人ひとりが環境に配慮する意識の向上に努め、日常業務に反映する。

### ⑧環境マネジメントシステム

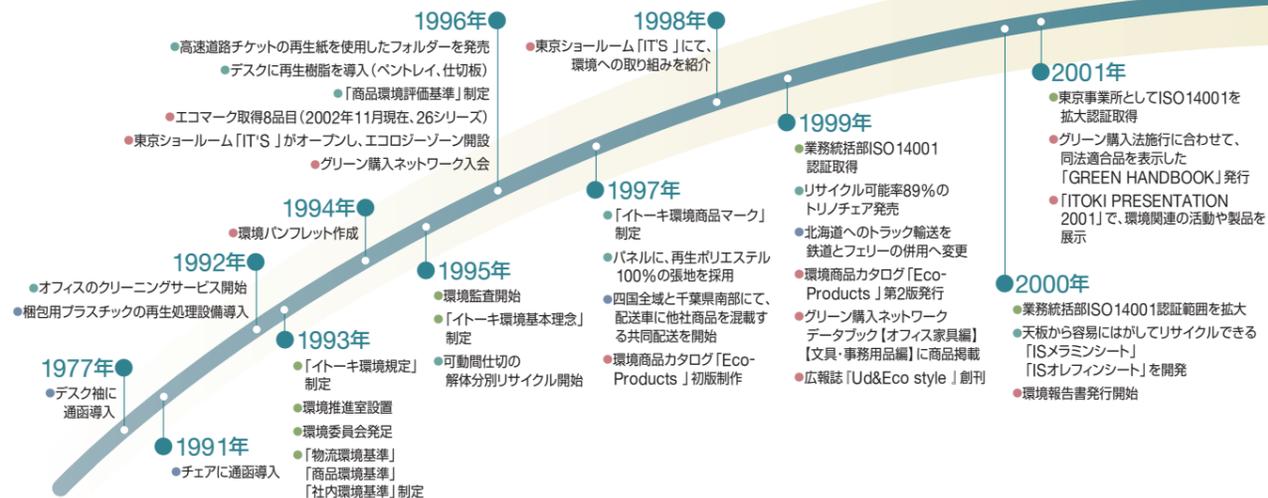
環境マネジメントシステムを構築し、各部門で順次ISO 14001を受審し、認証取得をする。取得部門は、目的、目標を設定して実施の上、目的、目標の見直しをする。

制定 1995年8月経営会議

改訂 1999年3月経営会議

## 環境活動のあゆみ

26年前から環境活動に取り組み、さまざまな企業活動に展開しています。



## 2002年度の主な新商品

### レビーノチェア

人とチェアが響き合う  
背もたれが奏でる至上のフィット感

- 使用済バッテリーケースから再生したポリプロピレン樹脂、PETボトル再生張地、アルミなどの素材を使用。
- 廃棄時の解体・分別が容易な設計。主な樹脂パーツには材質表示。
- 背・座・キャスターなどの消耗品の交換が容易。
- ランバーサポート（腰部支持点）位置調整、座面奥行調整など個人差に合わせた多彩なアジャスト機能が充実。
- さまざまな人の背骨形状を考慮したバリアブル・バックレストシステムを採用。

### ミーティングチェア・manos

ソフトベンディングシェルで疲労感をやわらげるミーティングチェア。

- 座の芯材にスリットを入れクッション性を高めたベンディングシートを採用で、ウレタンの厚みを半減させ省資源化を実現。
- 背、座、脚部などの各パーツごとに分解しやすい解体容易設計。
- 再生張地・再生樹脂の採用、部品交換が容易など、リサイクルに配慮。
- 軽くて移動がしやすい。
- 長時間座っても疲れにくい設計。

### momotaro

高次元・高密度な  
仕事の振る舞いから生まれた  
ミニマム・クリエイティブ  
ワークステーション

- 天板芯材に低ホルムのパーティクルボード（E0レベル）を使用。
- 天板表面に低圧メラミン加工を施すことで、表面材を剥離せずに粉砕でき、再びボード材にリサイクル可能。
- デスクスクリーンにPETボトル再生繊維を使用。
- リサイクル、ロングライフを考慮し、簡易組立/解体容易設計/単一素材/部品交換可能。
- 個人の体格差に合わせてデスク天板の高さ調節が可能。
- 軽い操作性や移動性、手当たりがやさしい天板エッジなどの多彩な快適機能を装備。

## 2002年

### ISO 14001 全社統合認証を取得

1999年11月に業務統括部がISO 14001を認証取得して以来、認証範囲の拡大に取り組み、2002年11月に全社統合認証を取得しました。全国16サイト（全国46カ所の支社、支店、物流センター）が認証されたことで、全ての部門で環境マネジメント活動の徹底に努めています。

【詳しくはP8参照】

### 環境イベントに出展

「びわ湖環境ビジネスメッセ2002」（滋賀県立長浜ドーム）と「エコプロダクツ2002」（東京ビッグサイト）の2つの環境展に出展。ひまわりの種、麦わら、大豆の絞りかすなどの、農産廃棄物を家具素材として再利用した「アグリファニチャー」を出品し、多くの来場者の興味を引き、数社のTV局から取材を受けるなど、大きな反響がありました。

【詳しくはP21参照】



ISO 14001登録証授与式

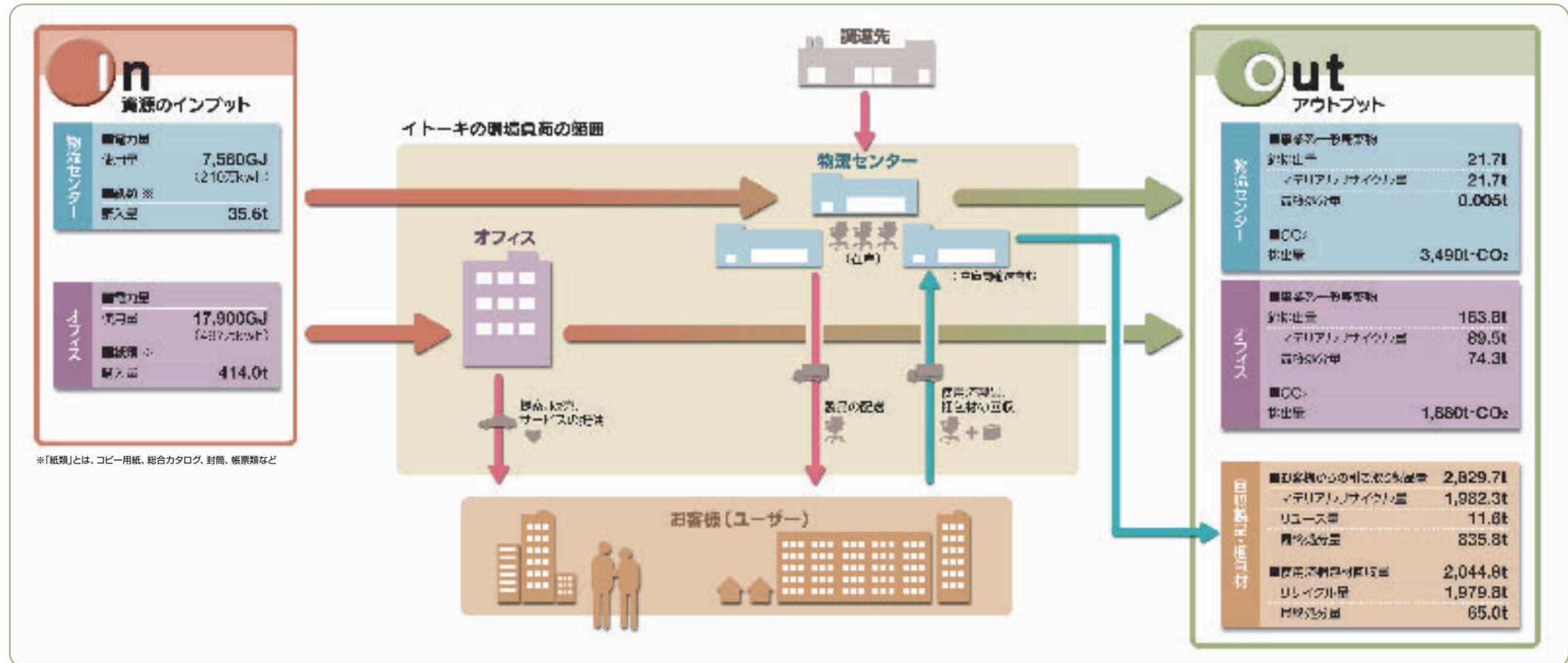


エコプロダクツ2002・イトーキブース

事業活動にともなうさまざまな環境への影響を把握し、環境負荷を削減するために環境目的・目標の達成に取り組んでいます。

## 事業活動にともなう環境への影響

環境保全活動を行っていくためには、自社の事業活動がどのような場面で、環境にどのような影響を及ぼしているのかを検証し、具体的な環境負荷を把握する必要があります。  
当社は製造部門をもたないため、製品の配送と使用済の製品・梱包材の回収、オフィスにおける業務が主な事業活動になります。当社では、こうした現状をできる限り正確に把握し、それぞれに最適な対策を講じることで、環境負荷を軽減する努力を行っています。



対象:全サイト

## 2002年度環境目標と実績

2002年度は、11月にISO14001の全社統合認証を果たしました。これまで東京事業所を中心に行ってきた省資源・省エネルギー活動、グリーン購入、廃棄物削減とリサイクル活動などを全国的に進め、特に廃棄物の排出量削減、リサイクル促進、輸送トラック排出ガスの低減などに多くの成果を上げることができました。

### 2002年度 環境目標と達成状況

環境目標	対象組織	目標値	実績	評価
エネルギーの使用量削減	A	電力使用量3%減	1.5%減	△
	B	電力使用量3%減	6.6%減	○
	C	電力使用量3%減	8.2%減	○
廃棄物の排出量削減	A	廃棄物(燃えるゴミ)の排出量5%以上減	36.0%減	○
	B	廃棄物の総排出量3%減	38.1%減	○
	C	廃棄物(燃えるゴミ)の排出量5%減	15.4%減	○
資源(紙・木材)の使用量削減	A	コピー用紙の使用量5%減	0.3%増	×
	B	コピー用紙の使用量5%減	7.6%減	○
	C	コピー用紙の使用量5%減	11.8%減	○
廃棄物のリサイクル促進	A	廃棄物リサイクル率50%以上	47.3%	△
	B	廃棄物リサイクル率40%以上	70.5%	○
	C	廃棄物リサイクル率60%以上	77.4%	○
輸送トラック排出ガスの低減	C	輸送トラックCO <sub>2</sub> 排出量10%減	25.6%	○

対象組織	(サイト名はP8参照)	対象期間	備考
A	ニッセイ、アーバン、エーユー、銀座、新宿の計5サイト	2002年度	対2001年度比
B	北海道、東北、関東信越、千葉、神奈川、中部、大阪、中四国、九州の計10サイト	2002.7.1~11.30	数値は、2001年度7月~11月の5カ月と比較
C	物流サイト(北海道、東北、埼玉、関東、三重、関西、岡山、九州の計8カ所の物流センター)	2002.7.1~11.30	数値は、2001年度7月~11月の5カ月と比較、原単位比※

※ 出荷才数100才当たりの原単位で算出(1立方メートル=36才)

### 2002年度 取り組み内容

環境ISO活動の推進	●ISO14001の全社統合認証を取得 ●ISO文書の管理システムの導入	P8-9
環境に配慮した商品開発および設計	●製品環境評価基準の徹底 ●既存製品の環境負荷低減の実施→総合カタログのグリーン購入法適合商品率 87% ●チェックシートによる環境に配慮した設計提案	P11-13
廃棄処分品の削減	●モデルチェンジなどによる廃止商品を張り替え、塗り替えし、商品として再生。在庫として保管	—
快適空間デザインの提供	●顧客へ環境提案資料を作成し、環境提案を実施 ●社内に向けて、環境に配慮した提案の意義と重要性を啓蒙	P14-15
環境に配慮した輸送・配送の実施	●全国配送車両からのCO <sub>2</sub> 排出量を削減→JRコンテナを使ったモーダルシフトにより、744t-CO <sub>2</sub> 削減	P16
梱包資材の環境負荷削減	●梱包材の環境負荷低減を目的として梱包基準を作成し、調達先へ徹底 ●梱包材のリサイクル率向上→発泡スチロールは95.9%を達成	P16-17
省エネ・省資源の推進	●基幹サーバなどの社内設備を省エネ型へ改善 ●アウトプット帳票の電子化の推進→88%達成	P18
グリーン購入の推進	●グリーン購入ガイドラインの見直し、運用 ●パソコン、プリンターなどOA機器を環境配慮型機器に転換 ●社内備品のグリーン購入率の向上→コピー用紙95.2%、パソコン98.3% ●リース機器の廃棄・返却の手順を規定	P19
顧客への環境情報の提供	●グリーン購入法適合商品の情報を総合カタログに掲載 ●環境関連の展示会へ出展	P20-22

イトーキは、ISO14001の全社統合認証を取得しました。より高いレベルで環境マネジメントシステム(EMS)を推進し、全社員一人ひとりの環境意識向上を図っています。

## ISO14001 全社統合認証を取得

イトーキは、1999年11月に業務統括部(関東物流センターおよび開発部)においてISO14001を認証取得して以来、毎年、認証範囲を拡大し、2002年11月に全社統合認証を果たしました。これにより、イトーキの全ての活動がEMSの対象範囲となり、製品の設計からお客様への納品までの全ての段階で、よりレベルアップした環境保全活動に取り組んでいます。



ISO14001審査風景



ISO14001登録証

## EMSの組織体制

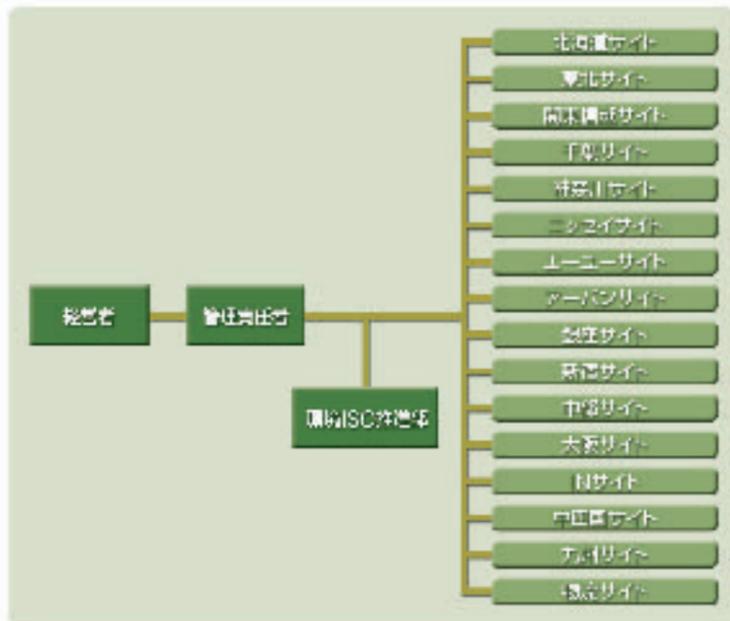
イトーキ従業員および社外要員を含め、総勢1569名のEMS組織です。それぞれのサイトには、サイト責任者を任命し、当該サイトの環境に関わる責任を担っています。また、サイト責任者の下にはそれぞれ環境推進リーダーを配し、各事業所の活動を推進しています。

## 内部環境監査の実施

年に1度、EMSの効果、適切性、適法性などをチェックする内部環境監査を実施しています。ルール通りに運用されているか、普段見逃してしまうようなルール上の矛盾やあいまいさはないかなど、内部監査員が厳しい指摘を行い是正します。

内部監査員 77名

### ISO14001推進組織体制



### ISO14001登録範囲

家具、施設機器、建材内装設備と商業施設機器の販売、開発・設計、製造、施工、保管及び物流に係る事業活動

●登録日  
1999年11月11日

●全社統合認証登録日  
2002年11月11日

## 従業員のEMS教育

全従業員に対し、EMSへの理解を深め、実行方法を指導するための教育を実施しています。



環境教育の研修風景

### ■全従業員への教育「自覚の教育」を実施

- 環境方針、地球環境問題、ISO14001についての理解。
- 環境関連法規、イトーキの環境施策、全社の環境パフォーマンスの現状などの理解。
- 各サイトにおける環境目標および環境目標実行計画、各手順書、サイトにおける環境活動のパフォーマンス状況の理解。

### ■環境側面に深く関わる部門の教育

- 開発部 オフィス家具製品を環境対応させるための、製品設計の際に考慮すべき「製品環境評価基準」の教育。
- デザイン部 オフィスプランニングやお客様への提案活動の中で、いかに環境にやさしいオフィスを提案できるかを学習。
- 物流企画室 物流業務において、CO<sub>2</sub>やエネルギー使用量を削減し、かつ納期通りに製品をお届けするためには、どのような輸送手段が良いかを学習。
- 内部環境監査員 外部講習によりISO14001を理解。

## 環境関連法規制等への対応

当社の事業活動において環境に関わる法規制等に違反、告訴、利害関係者からの苦情は過去5年間ありませんでした。

### ■主な環境関連法規への対応

- 循環型社会形成推進基本法  
最終処分する廃棄物になりにくい製品、または廃棄物になった場合はリサイクルしやすい製品の設計・開発を行っています。
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律  
全国15のオフィスサイトでは、リサイクル率を向上させながら事業系廃棄物処理を適法に実施しています。また物流サイトにおいては、リサイクル率を向上させながら manifests の管理を確実に実施しています。
- 資源有効利用促進法(リサイクル法)  
企業責任として資源を有効に利用するために、製品設計時に考慮すべき基準を制定し、これに準拠した製品の設計開発を行っています。

## 緊急事態に備えた体制の準備・訓練

倉庫内において、火災が発生した場合、煤煙により大気汚染を引き起こしかねません。これに備え、全国物流センターでは消火設備の点検整備、使用方法の訓練、年1回の消防訓練などを手順書に定め、緊急事態に備えています。

## 代理店へのISO14001の奨励

主要代理店へのISO14001の認証取得を奨励しています。8社の代理店が認証取得しました。

## TOPICS

### 1

## 水戸支店の分別基準がテナントビル全体の基準へ

イトーキ水戸支店のゴミの分別基準がアクサ水戸ビルの標準基準に採用されました。1テナントであるイトーキの環境への取り組みが、ビル管理会社と約30社のテナントのゴミの分別・リサイクルに対する意識を変え、ビル全体での環境負荷の大幅な削減につながっています。

### ■分別区分の基準例(基準書より抜粋)

#### リサイクルする廃棄物の分別

- 紙類(5種類に分別)
  - ①コピー用紙
  - ②カタログ・雑誌類
  - ③新聞紙
  - ④段ボール
  - ⑤その他紙類
- 缶
- ビン
- ペットボトル

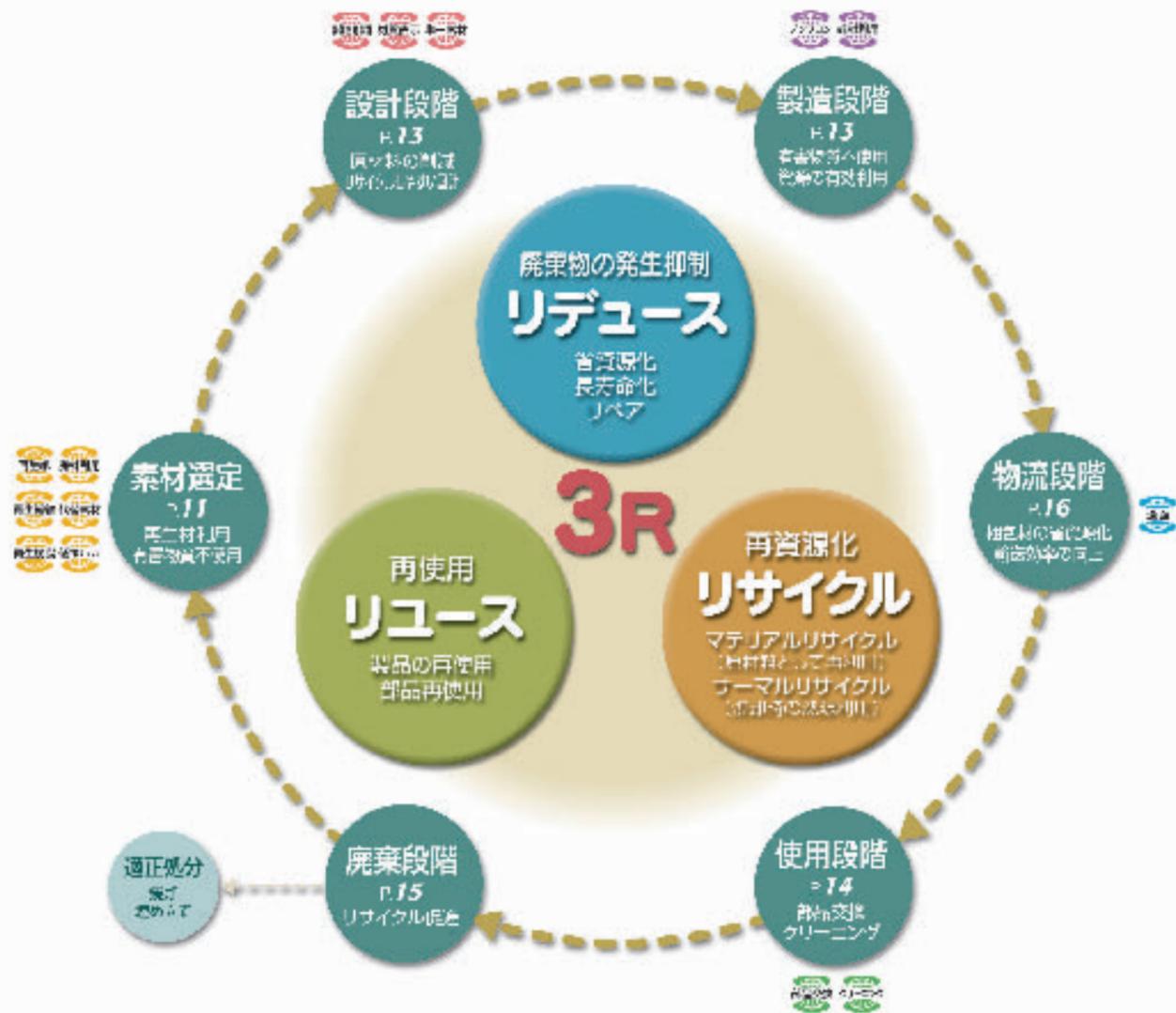
#### リサイクルしない廃棄物の分別

- 燃えるゴミ(雑ゴミ)
- 燃えないゴミ(ビニール類、陶器類、プラスチック類など)



アクサ水戸ビル

素材の選定から廃棄に至るまで、製品づくりの全ての段階でリデュース、リユース、リサイクルの3Rを推進しています。



## 廃棄物を出さない製品づくりへ

3Rとは、リデュース、リユース、リサイクルの3つのRのことです。これからの製品は、資源や廃棄物の「リサイクル(Recycle)」に加え、資源を使わずに「リデュース(Reduce)」や、修理などをして再び使用する「リユース(Reuse)」により、製造時の環境負

荷が低く、かつ長く使える製品であることが重要です。イトーキでは、1999年より自社環境ピクトマークを設定し、それぞれの製品における個別の環境対策に取り組んできました。2000年からは、それぞれの対策に加え

て、製品のライフサイクル全体で資源を有効利用することで、最終的な廃棄物の焼却・埋立量の削減をめざす、3Rを中心とした製品づくりに積極的に取り組んでいます。

## 素材選定 限りある資源を大切にするために



## 大地のめぐみから生まれた「アグリファニチャー」

麦わら、大豆のしぼりかす、ひまわりの種の殻などの自然原料を使った家具シリーズ「アグリファニチャー」の開発を進めています。今まで、農産廃棄物として大量に棄てられていたものを家具の原材料として使うことで、資源を有効に利用でき廃棄物の削減に貢献します。さらに、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどのVOC(揮発性有機化合物)を出さないなど、使用者の健康に配慮した家具です。

### アグリファニチャーの特長

- 資源を有効利用(農産廃棄物、未利用材を使用)した家具。
- ひまわりの種、麦わら、大豆のしぼりかすなどの自然原料を使用。
- ホルムアルデヒドなどの有害物質を放出しない。
- リサイクル可能。
- 焼却しても有害なガスを発生しない。
- 自然の素朴な味わい。

### ダコタパール

ひまわりの種を粉砕し、熱圧成型したボード



ダコタパールを天板に使用したテーブル

### バイオボード

麦わらを粉砕し、熱圧成型したボード



バイオボードでつくられたロッカー

### エンバイロン

古新聞を粉砕し、大豆のしぼりかすを接着剤として熱圧成型したボード



エンバイロンを天板表面材に使用したテーブル

## アグリファニチャーを小学校に納入

環境に配慮した学校づくりに取り組む、三重県川越町立川越南小学校に教師用収納棚、生徒用ロッカー、掃除用具キャビネットなどのアグリファニチャーを納入しました。先生や生徒たちが使う身近な家具に採用されたことで、環境教育の題材としても役立っています。



教師用収納棚



ゴミ箱収納庫



生徒用ロッカー、掃除用具キャビネット

### デスク・チェアに間伐材を使用

森林を育てるために間引かれた間伐材。イトーキは、天板に間伐材を使用したデスク・チェアの採用を進めています。反りや割れなどが無い良質の間伐材製品を供給するために厳しい品質管理を実施。表面仕上には、環境に配慮

した自然植物オイルを採用するなど、自然素材を積極的に取り入れています。国内に多いスギ・ヒノキ・カラマツなどの間伐材の利用を促進させるために、間伐材製品はグリーン購入法の対象になっています。



ヒノキの間伐材で作られた児童用デスクとチェア

### リサイクル素材を製品に使用

樹脂パーツと張地部分は、ほとんどの製品でリサイクル材を採用しています。

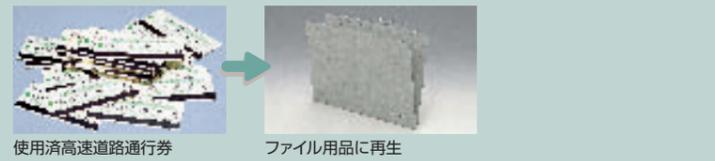
**再生樹脂** 回収したバッテリーケースから再生したポリプロピレンをチェアやデスクなどのパーツに使用。



**再生繊維** 使用済PETボトルを原料にした再生ポリエステル繊維をチェアやパネルなどの張地に使用。



**再生紙** 使用済の高速道路通行券を100%配合した再生紙をファイル用品のフォルダーなどに使用。



### リサイクル可能な素材の使用

リサイクル率が高いスチール、アルミなどの金属や、ポリエチレン・ポリプロピレンなどのオレフィン系樹脂を製品に積極的に使用しています。樹脂パーツには、廃棄時の分別やリサイクルがしやすいように、パーツごとに材質表示をしています。



トリノチェアは、背座とエアシリンダーを除く89%がリサイクル可能



ポリプロピレンの材質表示

### 設計段階 使いやすくリサイクルしやすい製品のために



### 環境評価基準に基づいた設計

イトーキでは、2001年4月1日の資源有効利用促進法(リサイクル法)の施行にともない、「製品環境評価チェックリスト」を改定し、新製品開発および設計変更時に適用しています。2002年度は、24の製品群でこの評価チェックを実施しました。リサイクル法で指定されている、金属製の事務用机・回転椅子・収納家具・棚の4品目以外の製品にも積極的に適用しています。

### 環境に配慮した設計の提案

研究設備、金庫設備、ネットワーク設備の分野では、「環境に配慮した設計項目チェックシート」を作成。顧客対応物件ごとにチェックシートに沿った設計と製品の提案を行っています。2002年度(2002年6月～11月)は15の対象物件に対し、環境に配慮した設計を提案し、ご採用いただきました。チェックシートでは納品時の配慮事項として、積載量に対する最適車両を使用すること、振動・騒音を伴うような工事は施主や上下階フロアなどへの承諾を得ることなども、あわせてチェックしています。

#### 製品環境評価チェックリストの主な項目

ライフサイクル	イートキポイント	目的	評価項目
素材選定	省資源	原材料等の使用の合理化	・原材料の使用削減 ・軽量化、減量化
		包装材の工夫	・簡素・軽量化包装材の使用
	再生可能材	原材料の工夫	・再生可能材料の使用
		包装材の工夫	・再生資源可能な包装材の使用
再生素材	再生材料の利用	・製品、部材の再生材料の利用	
	包装材の工夫	・再生包装材の使用	
設計段階	廃材利用	省資源化	・未利用資源の有効活用
		代替素材	・有害物質の回避、削減
	解体容易設計	構造の工夫	・ねじ数量の削減 ・再生可能材料部品の分離・分解の容易化
		包装材の工夫	・再生可能な包装材の分解の容易化
材質表示	分別のための工夫	・再生資源として利用	
	包装材の工夫	・分別・分解の容易化	
単一素材	原材料の工夫	・材料の種類の削減	
物流段階	通函	包装材の工夫	・回収運搬が容易な包装材の使用
使用段階	ロングライフ	部品交換	・耐久性の向上 ・修理と部品交換の容易化

#### 環境に配慮した設計項目チェックシートの主な項目

- 研究設備
  - ・有害物質の大気への排出を抑える高性能な排気設備の導入
  - ・脱塩ビ素材の使用
  - ・実験台やパネルに、ホルムアルデヒド放散量が少ないE0レベルのパーティクルボードの使用
  - ・リサイクル率の高いスチールの使用
- 金庫設備
  - ・有害物質がほとんど含まれていない水性塗料、天然系塗料の使用
- ネットワーク設備
  - ・脱塩ビケーブル、複数配線箇所での多対ケーブルの使用

### 汚染物質流出を防ぐ実験用家具

研究施設の実験用家具/設備の代表的な製品であるヒュームフード。危険な薬品を扱うヒュームフードの排水口は従来作業面上に設けてありましたが、汚染物質を誤って作業面上にこぼした場合、排水口に流れ落ちる危険性がありました。そこで、排水口を作業面よりも高い位置に設け、汚染物質が排水口に流れ込まないようにしました。



実験用家具システムのヒュームフード

## TOPICS 2 カラマツ集成材家具が「やまなしグッドデザイン賞」を受賞

山梨県の人工林面積の約30%を占めるカラマツ材の有効利用として、山梨県産カラマツの集成材を天板に採用した木金混合デスクの開発を県と共同で取り組みました。反り、ねじれ、ヤニが出やすいカラマツの短所を抑えるために実験・試作を繰り返し製品化を実現。この活動が高く評価され、山梨県が選定する「2002年度やまなしグッドデザイン商品」に選ばれました。

選定証



カラマツ集成材家具が納入された南アルプス市立若草生涯学習センター



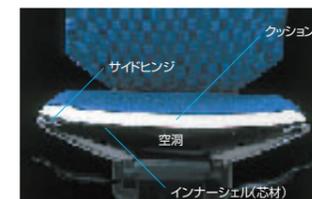
若草生涯学習センター外観



天板にカラマツ集成材を使用したデスク

### チェアのクッションを省資源化

座の芯材にスリットを入れてクッション性を高めることで、クッション材のウレタン厚を従来の半分に削減し、省資源化を実現させました。また、ウレタンは製造時に出た端材も使用しています。関連製品:トリノチェア、マノスチェア、クリケットチェアなど



フロントベンディングシート(トリノチェア)



70以上のスリット入っている座のインナーシェル(マノスチェア)

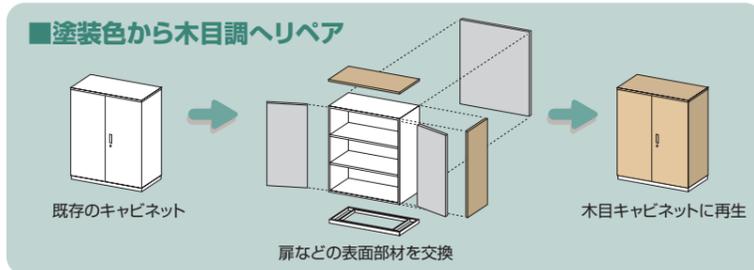


**使用段階** いつまでも快適にお使いいただくために



**収納キャビネットのリペア**

キャビネットの扉や引出し前板などを交換または再塗装し、外観をリペアすることで製品のロングライフ化ができ、家具の買替え費用と廃棄物の大幅削減が実現できます。  
また、グレーの塗装色を木目調に変更するなどのイメージチェンジも可能です。



**チェアのリペア**

長期使用による汚れやいたみのあるチェアやソファは、張地やクッションの取替え、木部の傷の補修や再塗装などのリペアが可能です。国家認定のいす張り技能士の優れた技術で、新品同様に蘇らせ、製品のロングライフ化を実現します。また、テーブルやデスクも木部の補修などのリペアを行っています。



**オフィス家具のクリーニングサービス**

使用中のオフィス家具の頑固な汚れやシミをプロの技術で洗浄し、家具をリフレッシュさせるサービスを行っています。あらゆる家具・素材に対応でき、専用機材と環境に害のない洗浄剤を使用。製品のロングライフ化に貢献します。首都圏では2002年度に52件実施しました。



左半分のみを洗浄したチェア

**チェアの部品交換**

チェアはキャスターや背・座が簡単に交換でき、製品自体が長く使えて廃棄物削減に貢献。「部品の修理・交換が容易な事務用および学校用椅子」として11シリーズでエコマークを取得しています。



**デスクのリバーシブル天板**

エーキューズデスクのリバーシブル天板は、左右を気にせず柔軟なレイアウト変更が可能。利便性を考えたロングライフ設計です。



**廃棄段階** リサイクルを有効に進めるために

**使用済製品を回収しリサイクルを実施**

新規購入されたお客様に製品を納品する際に、使用済製品の引き取りサービスを行っています。回収した製品は、物流センターなどの一時集積場所に集められます。そこで、各製品を解体・分別し、素材ごとにリサイクル業者へ送ります。全国において活動を積極的に展開中です。

●家具・什器のリサイクル

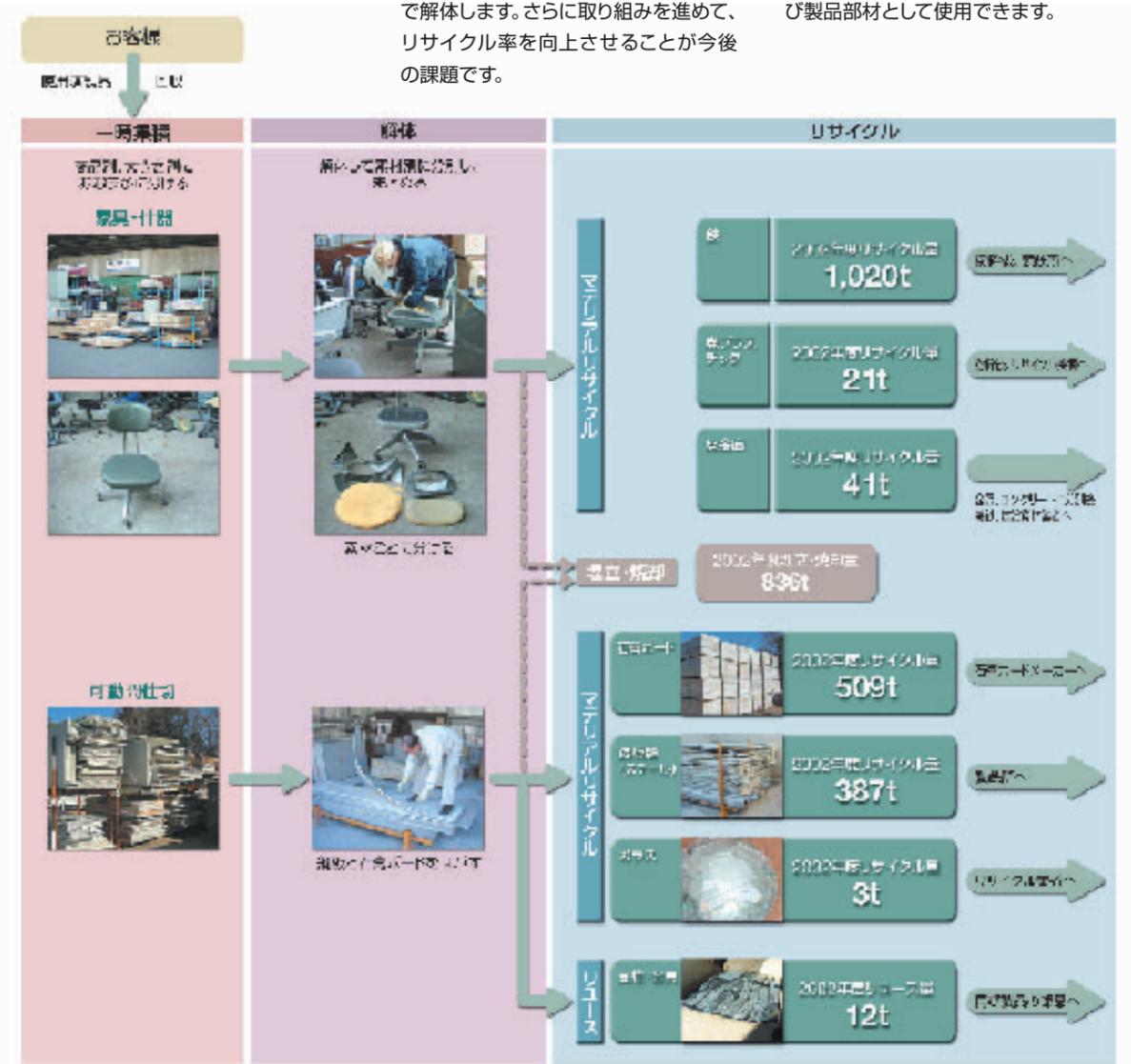
回収済家具・什器製品のリサイクル率  
2002年度 **56.4%**

チェア、デスク、会議用テーブルなど、どんな形状の家具でも解体・分別し、できる限り素材ごとのリサイクルができるようにします。金庫は特殊な構造をしているので、金庫ごと処理業者へ送り、そこで解体します。さらに取り組みを進めて、リサイクル率を向上させることが今後の課題です。

●可動間仕切のリサイクル

回収済可動間仕切のリサイクル率  
2002年度 **90%**

可動間仕切のリサイクルは、10年以上前から実施しています。間仕切の主な素材である石膏ボードとスチールをきれいにはがして分別します。解体後の金具など金属部品は、不具合がなければ再び製品部材として使用できます。



対象：物流サイト

製品の輸送方法改善による二酸化炭素や排気ガスの排出抑制、梱包材の省資源化やリサイクルを行っています。

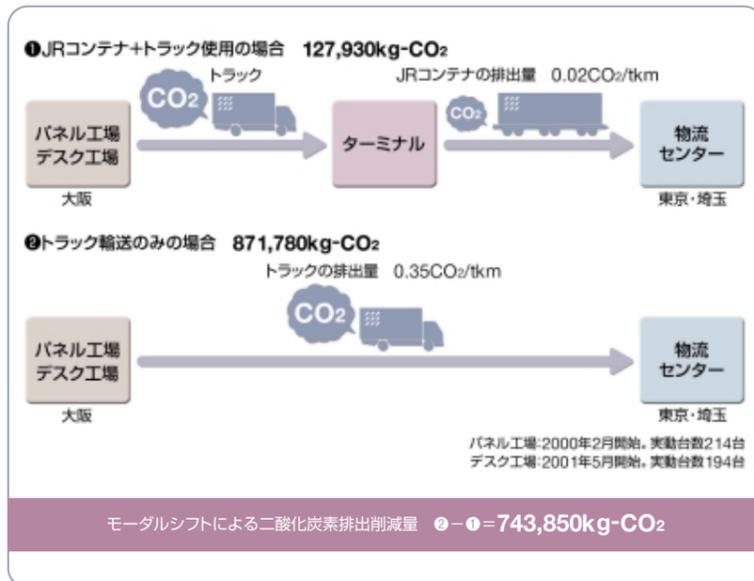
## 輸送にともなう二酸化炭素排出の抑制

### ●モーダルシフト

二酸化炭素の排出量を削減するために、製品の幹線輸送の一部をトラックから二酸化炭素排出量の少ないJRコンテナへ切り替えるモーダルシフトを実施しています。現在は、パネル工場とデスク工場の輸送でJRコンテナを導入しています。



幹線輸送を担うJRコンテナ



### ●低公害車への転換

製品輸送にともなう二酸化炭素や排気ガスの排出を低減するために、低公害車(天然ガス自動車)を導入しています。

天然ガス自動車(CNG車)導入台数  
 2002年度 6台



天然ガスを燃料に走るエコトラック

### ●電動フォークリフトへの切替え

1991年から、構内作業用のフォークリフトはガンソリン式から二酸化炭素排出量の少ない電動フォークリフトへの切替えを推進しています。現在では全国物流センターにある78.4%が電動フォークリフトとなっています。

### ●燃料別フォークリフト台数

	2001年度	2002年度
電気	107台	109台
プロパンガス	19台	17台
ガンソリン	13台	12台
軽油	0	1台
総台数	139台	139台

対象: 全サイト

## 梱包材の省資源化

### ●イトーキ梱包基準の改訂

当社では、従来の「イトーキ梱包基準」を大幅に見直し、「環境に配慮した梱包」内容に改訂、実施しています。

- 【材料基準例】**
- 保護用フィルム…ポリエチレンで厚さも規定
  - 封緘テープ…再生紙を使用したテープ(エコマーク商品)
  - PPバンド…再生材使用
- 【梱包基準の必須条件】**
- 再生可能な梱包材を使用すること
  - 再生材料を使用すること
  - 梱包材の分別がしやすいこと
  - 再利用可能な梱包材を使用すること



### ●繰り返し使える通函の使用

繰り返し使用できる梱包材として通函をはじめ導入したのは1977年。それ以来ずっと、チェアやデスク袖の配送に通函を使用しています。2002年度は、全体で約9万ケース・98tの段ボールを節約した計算になります。



配送に使用した通函を回収し、何度も使用します

### ●2002年度 通函採用による段ボール削減量

	デスク袖、ワゴン	チェア
通函年間延べ使用数	96,178ケース	10,907ケース
通函新規購入数	11,686ケース	5,491ケース
段ボール 節約数	84,492ケース	5,496ケース
段ボール 節約量	80,267kg	17,547kg
段ボール節約量合計	97,814kg	



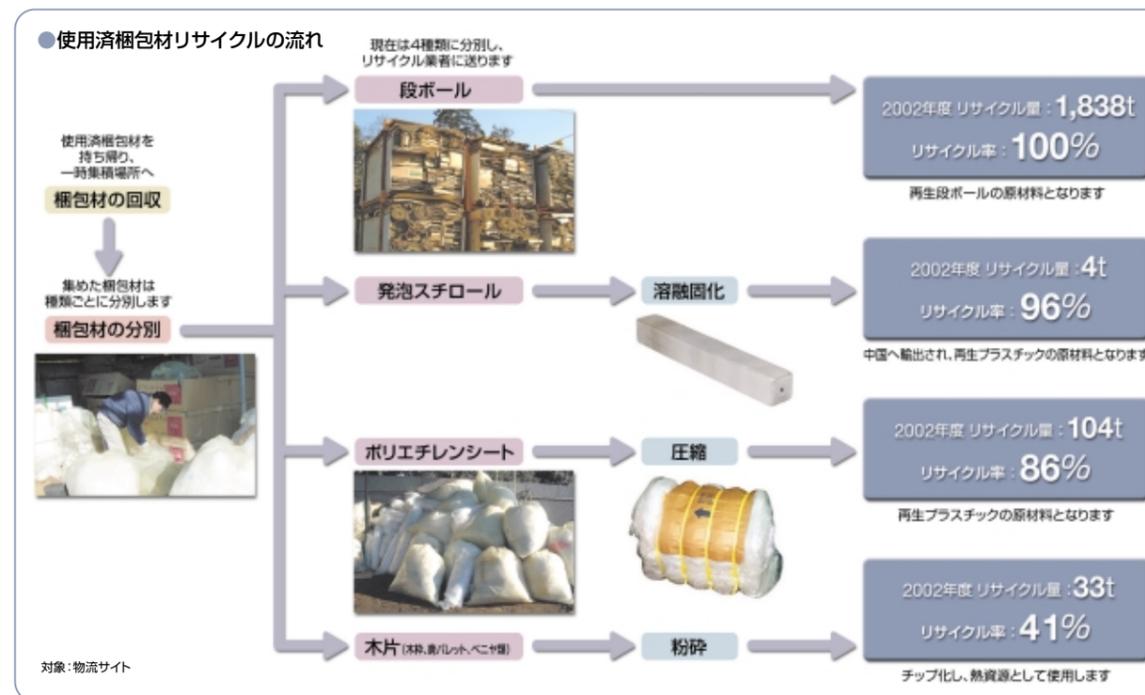
通函の封函方法はテープを一切使用しない差し込み式

## 使用済梱包材のリサイクル

製品の梱包材はお客様に納品後、当社の一時集積場所に持ち帰ります。そこで、素材ごとに分別し、リサイクルに努めています。1992年より、関東物流センターに発

泡スチロールの溶融固化やポリエチレンシートの圧縮のための設備機器を導入しています。発泡スチロールは玩具やカセットテープに、ポリエチレンシートは屋根の下地材にリサイクルして

います。2002年度の使用済梱包材のリサイクル率は96.8%。分別を進めることで、リサイクル率も向上しています。

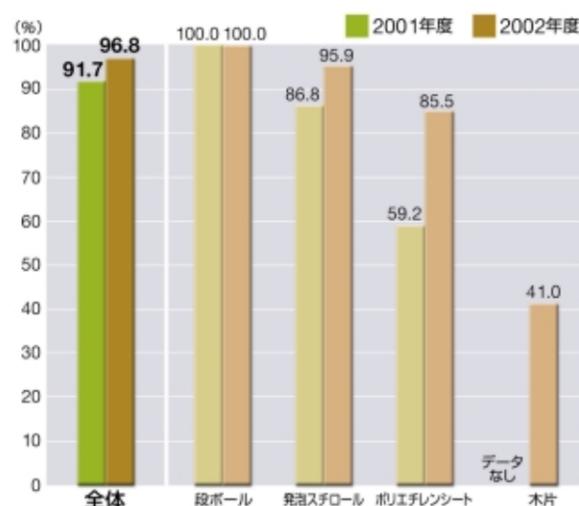


### ●使用済梱包材の内訳

種類	項目	単位: kg	
		2001年度	2002年度
段ボール	総量	1,980,557	1,838,370
	リサイクル量	1,980,557	1,838,370
	最終処分量	0	0
	リサイクル率	100.0%	100.0%
発泡スチロール	総量	5,320	4,490
	リサイクル量	4,620	4,307
	最終処分量	700	183
	リサイクル率	86.8%	95.9%
ポリエチレンシート	総量	229,827	122,134
	リサイクル量	136,145	104,423
	最終処分量	93,682	17,711
	リサイクル率	59.2%	85.5%
木片 (木枠、鹿バレット、ベニヤ類)	総量	96,958	79,783
	リサイクル量	データなし	32,679
	最終処分量	データなし	47,104
	リサイクル率	データなし	41.0%
最終処分量(全体)		191,340	64,998
総量(全体)		2,312,662	2,044,777
リサイクル率(全体)		91.7%	96.8%

対象: 物流サイト

### ●使用済梱包材 リサイクル率推移



エネルギーや資源の節約、コピー用紙のグリーン購入など、オフィスの日常業務の中で環境活動を行っています。

## 社員1人ひとりが行う「省・省・分・リ」活動

工場をはじめとした製造部門をもたない当社では、ISO14001による全社員共通の取り組みはエコオフィス活動が中心です。全国のオフィスビルと物流センターの事務所では、サイト単位で管理目標を設定し、省エネ、省資源、廃棄物の分別・リサイクルを中心としたエコオフィス活動を実施しています。キャッチフレーズは「私の役割 省・省・分・リ」。社員1人ひとりが、環境への意識をもって身近な活動から取り組むことが、会社全体の環境活動を支えることにもなります。

### ●紙類の使用量削減

無駄なコピーをしない、用紙の裏紙を積極的に使う、などのコピー用紙使用

量の削減に努めています。2001年度より、社内帳票類の電子化を推進しています。すでに対象帳票の88%が電子化され、帳票類の使用量も年々減少しています。

### ●省エネルギー活動

こまめな消灯やパソコンの電源管理による節電、オフィス内の温度と湿度の管理を行っています。当番制で月に2回活動内容を点検し、省エネの取り組みを徹底しています。

設備面では、オフィスサーバー室の空調機を省エネ型へ変更。物流センターでは省エネ型照明を使用しています。パソコン、サーバーなどのリース機器も、順

次電力消費の少ない機種に切り替えています。これらの機器のリース契約終了時にリース会社より廃棄処分を委託された場合には、部品の再利用や再資源化を目的とした排出手順書に沿ってリサイクルを実施しています。

### ●分別・リサイクル活動

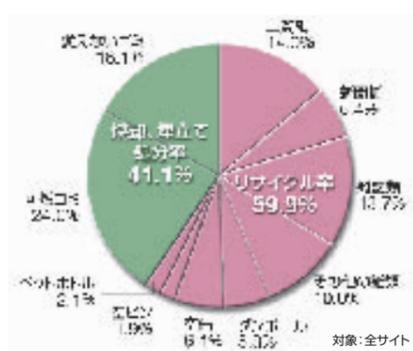
分別ゴミ箱を設置し、細かく分別しています。紙類が上質紙、新聞紙、雑誌、その他の紙類の計5種類で、空缶、空ビン、生ゴミなどを合わせると計10種類になります。個人での分別後、当番制でフロア、ビルごとにそれぞれ計量しています。分別がきちんとされているかは月に1回点検しています。

### ●2002年度 事業系一般廃棄物 リサイクル実績

リサイクル量	上質紙	25,905
	新聞紙	11,813
	雑誌類	25,362
	その他の紙類	18,552
	ダンボール	10,700
	空缶	11,377
	空ビン	3,490
	ペットボトル	3,978
	計	111,177
焼却、埋立て処分量	可燃ゴミ	44,430
	燃えないゴミ	29,898
	計	74,328
総排出量		185,505
リサイクル率(%)		59.9%

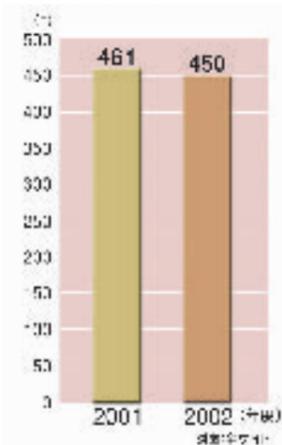
単位:kg 対象:全サイト

### ●2002年度 事業系一般廃棄物リサイクル率の内訳

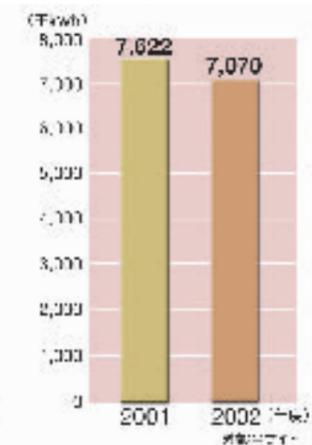


分別したゴミを当番制で計量

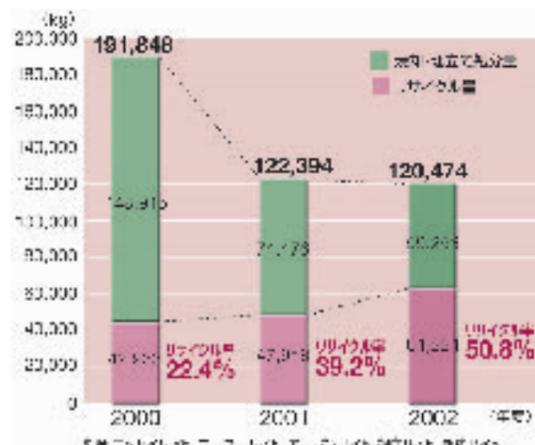
### ●紙類使用量の推移



### ●電力使用量の推移



### ●オフィスの総排出量とリサイクル率



## 社内の物品購入における配慮

### ●グリーン購入ガイドライン

当社では、社内の物品購入のために、独自の「グリーン購入ガイドライン」を作成し、環境負荷の少ない消耗品や機器類の購入を推進しています。ガイドラインの内容は、グリーン購入法適合レベルをベースに、購入対象として6品目を定めています。

#### グリーン購入ガイドライン

- 対象
  - ①コピー用紙、②パソコン、③文具・事務用品、④照明器具、⑤コピー機・プリンター、⑥冷蔵庫
- グリーン購入ガイドライン抜粋
  - コピー用紙:古紙配合率100%、白色度70%パソコン:
  - 一定時間使用しない場合、自動的に低電力モードに移行する機能を有し、消費電力が小さいこと
  - 省エネ法に基づくエネルギー消費効率が高いこと
  - コピー機・プリンター:
  - 両面印刷可能なコピー機・プリンターであること
  - 一定時間使用しない場合、自動的に低電力モード(またはオフモード)になる機能を有すること

### ●低公害車の導入

営業などで利用するオフィスの社用車も、徐々に環境に負荷の少ない低排出ガス車を導入しています。

低公害車導入率*
2001年度 30% (243台のうち68台)
2002年度 32% (243台のうち78台)

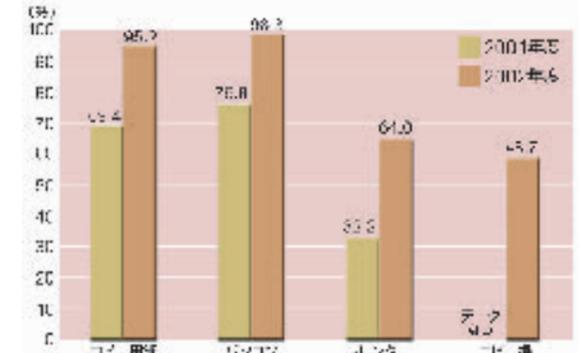
\*8都県市指定による低公害車

### ●社内グリーン購入の実績

対象	2001年度	2002年度
コピー用紙総量(kg) ※カラーコピー紙を除く	35,413	31,906
ガイドライン適合コピー用紙(kg)	24,576	30,363
コピー用紙グリーン購入率	69.4%	95.2%
パソコン総数(台)	1,750	1,829
ガイドライン適合パソコン台数(台)	1,344	1,797
パソコングリーン購入率	76.8%	98.3%
プリンター総数(台)	345	322
ガイドライン適合プリンター台数(台)	111	206
プリンターグリーン購入率	32.2%	64.0%
コピー機総数(台)		113
ガイドライン適合コピー機台数(台)		55
コピー機グリーン購入率		48.7%

対象:全サイト(コピー用紙のみコンプライアンスサイト、エコーサイト、アーバンサイト、銀座サイト、新宿サイト、関東物流センター)

### ●社内グリーン購入率推移



## 環境情報の共有

社員はもちろん、代理店や調達先も含めた関係会社に対して、さまざまなメディアを通じて環境情報を発信し、啓発活動を展開しています。

### ●「デイリーあい」

イントラネット上で配信される社内ニュース「デイリーあい」の中で、積極的に環境に関する記事を取り上げています。2002年度は、グリーン購入法やISO14001の関連情報などの「環境ニュース」が掲載されています。

### ●社内報「あい」

2カ月に1度発行する社内報「あい」に「環境先進企業」というコーナーを連載しています。ISO全国一括認証取得に向けて実施したさまざまな活動、環境ISOに関する情報などをわかりやすく紹介しています。

### ●イントラネット上の環境情報

イントラネット上に環境に関する掲示板を設けています。時間や場所に関係なく環境に関する情報をやりとりできる場として活用されています。

### ●イトーキ環境方針カード

1人ひとりの環境意識向上を目指し、社内啓発ツール「イトーキ環境方針カード」を配布しました。いつでも持ち歩ける名刺サイズのコンパクトなカードです。



イトーキの環境活動のご理解とご意見をいただくために、さまざまなメディアを通じてコミュニケーションの場をつくります。

## 環境への配慮がひと目でわかる環境ラベルの表示

どのような面で環境に配慮された製品か、お客様がひと目でわかるように情報を提供するの環境ラベルです。

当社製品の総合カタログでは、「製品de環境配慮」(P10)で説明した当社独自の環境ピクトをはじめ、さまざまな環境ラベルの表示を行っています。

※数字は2002年11月現在

### イトーキの環境ピクト

素材選定、設計段階、製造段階、物流段階、使用段階の5つの段階でどのような環境配慮を行っているかを、わかりやすくピクトで表示しています。

### GPNデータブック掲載品

グリーン購入ネットワーク(GPN)は、環境に配慮した商品の優先的な購入、開発、販売を促進する全国ネットワークで、グリーン購入ガイドラインに沿って製品の環境情報をまとめた「グリーン購入のためのGPNデータブック」を定期的に発行しています。

当社は「オフィス家具編」と「文具・事務用品編」に製品を掲載しています。

GPN データブック掲載製品  
2001年度 87シリーズ  
2002年度 104シリーズ

### グリーン購入法適合商品

国などの公的機関が率先して環境負荷の少ない物品を購入することを義務づける「グリーン購入法」では、重点的に調達を推進する環境物品(特定調達品目)を定め、適合商品としての判断基準を明示しています。

当社の取り扱う商品では、計14品目が「特定調達品目」に該当しています。これら適合商品には(社)日本オフィス家具協会(JOIFA)会員企業の統一マークを付け、緑色の文字で表記しています。

グリーン購入法適合商品率  
2001年度 82% ※総合カタログに掲載されている特定調達品目の中でのグリーン購入法適合商品  
2002年度 87%

### エコマーク

(財)日本環境協会が、環境省の指導のもとに実施している第三者認定による環境ラベルです。各商品、素材ごとに定められた認定基準を満たしたものが、環境保全に配慮したエコマーク商品として認定されます。

エコマーク取得商品  
2002年度 26シリーズ

### 環境配慮のPOINT

環境配慮のポイントを具体的に紹介。キャラクターであるユーデコ・グリーンが目印です。

### グリーン購入がひと目でわかるイトーキの見積書

2001年度より、当社見積書で環境配慮製品マークとグリーン購入適合品率が示されるようになりました。対象品目に示される記号は

「G」はグリーン購入適合品の印  
「N」はグリーン購入ネットワークのデータベース掲載品の印  
「E」はエコマーク商品の印

総合計では、これら3種類のマークの合計点数と、グリーン購入法品率が自動集計・表示されます。(右記の見積書では100%適合品です)グリーン購入実績の管理などにお役立てください。

数量	定価	対象品目
3	66,500	「G(A)」 「N」
3	49,800	「G(A)」 「N」
1	55,800	「G(A)」 「N」
3	34,500	「G(A)」 「N」 「E」
点数46	G46(100.0%)	N33 E6

**100% RECYCLED SOY INK**  
古紙配合率100%の再生紙、生分解性に優れたアロマフリー大豆インキを使用しています。

## 全国で開催される環境イベントへの出展

イベントへの出展は、普段イトーキに馴染みのない方にも環境への取り組みを知っていただくとともに、お客様の生の声をお聞かせいただく絶好の機会です。全国で開催されるイベントには積極的に出展しています。2002年度は、「びわ湖環境ビジネスメッセ2002」、「エコプロダクツ2002」に出展しました。

今年の展示の特徴は、「ホルムアルデヒドを放出しない家具」をテーマに、環境に特化した製品を提案したこと。この製品はひまわりの種、麦わら、大豆のしぼりかす、新聞古紙などを元に作られています。

まだこうした素材を使った製品は少なく、お客様からの関心も非常に高いものでした。塗料や強度等の専門的な内容から、価格、他の材料での可能性など質問も多岐にわたり、来場した方々の環境意識の高さを実感する場だったといえます。



びわ湖環境ビジネスメッセ展示風景



エコプロダクツ展では、普段コミュニケーションの少ない主婦や小学生、外国人の方など、さまざまな方にご来場いただきました



●びわ湖環境ビジネスメッセ2002  
開催日: 11月6日(水)~8日(金)  
会場: 滋賀県立長浜ドーム  
主催: 滋賀県環境ビジネスメッセ実行委員会  
来場者数: 40,866人

●エコプロダクツ2002  
開催日: 12月5日(木)~7日(土)  
会場: 東京ビッグサイト  
主催: (社)産業管理協会、日本経済新聞社  
来場者数: 100,483人

## TOPICS

### 3 マスコミからも注目を浴びたアグリファニチャー

従来廃棄されていた農産廃棄物を素材としたアグリファニチャーは、マスコミからの関心も高く、今回の展示はさまざまなテレビ番組で放送されたほか、雑誌・新聞にも取り上げられました。ひまわりの種や麦わらなど、今まで想像もしていなかった身近な自然素材から家具ができるという意外性、さらに有害な物質を含まない安全性、見た目にもナチュラルなデザイン性などが、大きな関心を集めた理由のようです。

放送を見て興味をもったお客様が、会場に足を運んでくださるという好循環もあり、幅広い方々にイトーキの取り組みを知っていただく良い機会となりました。



複数の放送局から取材を受け、テレビ放送されました



「日経エコロジー」2003年3月号表紙、P146から転載



**さまざまなメディアを利用した情報公開**

● **企業広報誌「Ud&Eco style」**

1999年より、ユニバーサルデザインと環境をテーマにした企業情報誌「Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」を発行しています。イトーキの企業姿勢、企業活動をお伝えするだけでなく、企業・市民・行政が取り組む国内外の先進事例などを幅広く紹介し、ユーデコスタイルの重要性をアピールしています。



「Ud&Eco style」誌

● **ホームページ/環境報告書**

イトーキの環境活動を知っていただくために、ホームページに「環境活動に対する取り組み」ページを設け、タイムリーな情報を公開しています。グリーン購入法などの用語説明やコラムなど、環境関連情報も随時更新中です。環境報告書は、より多くの方々にご覧いただくために、ホームページで同じ内容をダウンロードできます。

ホームページアドレス  
<http://www.itoki.co.jp/eco/>



イトーキホームページ「環境に対する取り組み」

● **環境経営度ランキング**

日本経済新聞社による第6回「企業の環境経営度調査」において、イトーキは「非製造業」398社のなかで24位にランキングされました。業種別の「商社部門」では6位でした。

● **環境関連団体活動**

社会全体で環境保全活動に取り組むために、当社はさまざまな環境関連団体に積極的に参加しています。

[現在参加している団体]

- グリーン購入ネットワーク(GPN)
- 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- 財団法人クリーン・ジャパン・センター
- 財団法人生産技術研究奨励会

TOPICS

4

**環境報告書を教材にした総合学習**

**千葉市立大椎中学校**

「イトーキ環境報告書2002」を発行後、千葉市立大椎中学校の複数の生徒さんからアンケートをいただきました。総合的学習の授業で、イトーキを含む企業の環境報告書を教材に使われたとのこと。理科教諭の長田先生にお話をうかがいました。

**Q 授業を受けられた生徒さんは?**

中学3年生の176名です。「科学技術の進歩と生活」「自然と人間」という2つのテーマで授業を行いました。

**Q 環境報告書を取り寄せた企業は?**

合計51社です。生徒に興味をもってもらうために、各分野である程度知名度のある企業を選びました。イトーキは、学校机や家具などで名前を知っていましたから。

**Q 授業はどのように行われたのですか?**

最初にグループ単位で黙読する時間をとり、後はいつでも自由に閲覧できるように理科室に置いておきました。1人1冊以上としましたが、実際には複数の

報告書を読んだ生徒が多いと思います。

**Q 環境報告書を読んだ生徒さんの反応は?**

報告書のポイントとして、企業と自然とのつながり、エネルギー関係、製品開発やリサイクルなどを見るようにアドバイスしました。あの会社はこんな環境活動をしているのか、と新鮮に映る面も多かったようです。

この授業をきっかけに環境について考えた経験は、今後きっと生徒の役に立つはず。知識一辺倒の人間ではなく、社会やほかのものにも目を向けられる人間になってもらいたいと思っています。

大椎中学校では、今年度も総合的学習で環境報告書を教材にした授業を行う予定だそうです。子どもたちの環境意識を育てるために企業に何が出来るのか、そのことを改めて考える機会をいただいた取材でした。



長田小百合先生



大椎中学校は平成10年に創立された新しい学校。南仏を思わせるオレンジ色の瓦屋根が印象的



生徒が書いた環境報告書感想文。中学3年生ともなると、問題意識や理解力もかなり高いという



FAX  
03-5543-1930

郵送先: 〒104-0042 東京都中央区入船3-1-13 エーユー入船ビル  
株式会社イトーキ 環境対策室 行  
E-mail:eco@star.itoki.co.jp

**皆様のご意見・ご感想をお寄せください。**

「イトーキ環境報告書2003」をご覧いただきまして、ありがとうございました。皆様のご意見・ご感想を今後の環境保全活動や環境報告書作成の参考とさせていただきます。大変お手数ですが、このページをコピーしてご記入の上、FAXまたは郵便にてお送りいただきますようお願い申し上げます。

● **アンケート** ※該当項目に✓をつけて、ご意見・ご感想などをご記入ください。

**Q1** 本報告書をお読みになって、どのようにお感じになりましたか。  
 わかりやすい (その理由を具体的にお書きください。)  普通  わかりにくい

**Q2** 本報告書の記載内容について、どのようにお感じになりましたか。  
 充実している (それはどのような点ですか、具体的にお書きください。)  普通  不足している

**Q3** 当社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。  
 評価できる (今後、当社に期待する環境保全活動に対するご要望があればご記入ください。)  普通  評価できない

**Q4** どのような内容に関心をもたれましたか。(複数回答可)  
 トップメッセージ  環境マネジメント  オフィスにおける取り組み  
 環境活動のビジョン&ダイジェスト  3Rを中心とした製品づくり  環境コミュニケーション  
 環境パフォーマンス  物流における取り組み  TOPICS 1、2、3、4

**Q5** その他、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。  
 ( )

**Q6** 本報告書をどのような立場でご覧いただきましたか。(複数回答可)  
 企業の環境担当者  購買(調達)担当者  報道関係者  株主・IR関係者  
 環境NGO・NPO  デザイン事務所・設計事務所  学生  行政関係者  
 外部調査機関  環境研究者  当社事業所の周辺住民  従業員  
 従業員の家族  その他 ( )

協力ありがとうございました。おさつかえなければ、下記にもご記入をお願い申し上げます。

お名前	フリガナ	ご職業	性別	男性・女性
			年齢	歳
ご住所 (ご連絡先)	フリガナ			
	〒□□□□-□□□□			
TEL		FAX		E-mail